

工学研究科機械工学専攻

[教員養成の目標]

工学研究科機械工学専攻は、科学技術社会を幅広く支える高度専門技術者の養成を教育研究上の目的としている。科学的知識とそれを研究展開していく能力を身に付け、人間の福祉・平和を基礎とした社会に貢献できる人材養成を目指している。それに基づき、教員養成課程では以下の諸能力を有する教員の養成を目的とする。

1. 機械工学に関する専門的知識を持ち、技術者倫理をもとに、実践的かつ先導的な研究に取り組む応用力を身に付けている。
2. 機械工学に関する先進的技術を理解する能力を持ち、これを解説できる学力を修得している。
3. さまざまな視点から新たなアイデアを生み出し、それを実践して社会に貢献できる力を修得している。
4. 技術者・教育者としての高度なコミュニケーション能力や人文・社会学的教養を持ち、技術を指導する能力を修得している。

特に、上記の1から4の能力を駆使して、工業の科目を通して、それらの知識が世の中でどのように役に立っているかを教え、それぞれの専門科目の楽しさを広く社会に広める人材の育成に努めることを目的とする。

[当該目標を達成するための計画]

工学研究科機械工学専攻における教員養成課程では、高等学校教諭専修免許状（工業）の取得が可能であり、工業教育を担う上で必要となる専門知識・技能を体系的に養う教育課程を編成する。

上記の教員養成を実現するため、機械工学の基本である「熱力学」「流体力学」「材料力学」「機械力学」を基にした「機械工学特別講義」はじめ各種専門選択科目と、修士論文研究に紐づく必修科目の「機械工学特別演習」「機械工学特別研究」を通じて、専門能力と研究・問題解決能力を身につけ、工業教育を担う上で必要となる専門知識・技能を体系的に養う教育課程を編成する。